

筑波経済月報 No.118 2023.5

■ 企業探訪

関わる全ての人たちと明るく家庭的な関係を築き、大きな安心の和を、無限に広げていく会社

株式会社エディファミリー

■ 支店長のわがまち紹介

防災と官民連携にこだわる

稲敷市

■ 研究員レポート

第78回「茨城県内企業経営動向調査」(2023年3月調査)

脱炭素の取り組みに関するアンケート調査

筑波総研 株式会社



稲敷市の水郷景観



稲敷市鳩崎地区の水田風景



稲敷市古渡地区から望む霞ヶ浦

(写真提供／稲敷市)

「霞ヶ浦」は、霞ヶ浦(西浦)、北浦、常陸利根川を全部含めた湖で、面積は220㎢と日本第2位の広さがあり、平均水深は約4m、最大でも7mと広くて浅いという特徴があります。流域(降った雨が流れ込む地域)は茨城県22市町村、千葉県1市、栃木県1町の24市町村2,157㎢にまたがり、湖の面積の約10倍の地域から川の水が流れ込んでいます。霞ヶ浦周辺は「水郷」と呼ばれ、筑波山、加波山などの山塊を合わせ、水郷筑波国定公園に指定されています。

稲敷市は霞ヶ浦(西浦)の南側に面し、利根川、新利根川、小野川などの豊かな水辺環境を有しています。和田岬や妙岐ノ鼻など釣りやキャンプ、バードウォッチング、ボートなどの拠点となる環境があります。

「妙岐ノ鼻」は、霞ヶ浦周辺で最も水郷情緒を残す浮島地区に霞ヶ浦に突き出た形で広がる関東地方最大級の湿地帯です。一帯はヨシを中心にマコモやガマなどの水生植物が生い茂り、国指定天然記念物のオオヒシクイや希少なコジュリンなど数多くの野鳥が生息しています。観察小屋や歩道が整備され、バードウォッチングのポイントとなっています。近年は、これらの貴重な動植物を保全するため、2月下旬から3月上旬にかけてヨシ焼きが行われています。

「稲敷」の名前から想像できるように、市内には表紙の写真のような水田があたり一面に広がっています。稲敷市はコメの新品種「ミルククイーン」をいち早く栽培し、特産品に育てました。他にも、GI(地理的表示)認証を受けた「江戸崎かぼちゃ」や「浮島れんこん」などブランド野菜の生産も盛んです。

新緑の季節、水郷の清々しい景観を見に稲敷市を訪れてはいかがでしょうか。

